

いつかまた会えることを信じて 輝ける未来へ新たなスタート 福島県立只見高等学校卒業証書授与式



▲卒業証書を受け取る卒業生代表の五十嵐花奈恵さん

雲の間から心地いい日差しが校舎を照らした3月1日、平成23年度第48回卒業証書授与式が只見高等学校体育館で行われ、菅野諭只見高等学校長から、卒業生代表の五十嵐花奈恵さんに46名の卒業証書が手渡されました。

菅野学校長は式辞で「人との絆を信じ信頼関係を築き、ネットワークをつくり、明るい未来を切り開いてください。次世代を担う若い力が日本の復興には必要。地域の担い手になることを期待します」と述べました。続いて目黒町長は「夢は人と係わっていくなかで大きくなる。夢に向かって努力してください。」

町を支える力となつてくださ」と祝辞を述べました。

在校生代表送辞で、増田快さんは「先輩方は私たちの手本であり誉れ。先輩方の心を受け継ぎ頑張ります。先輩方も母校の誇りを胸に頑張ってください」と述べました。

また、卒業生代表答辞で、渡部凌輔さんは「いつかまた、このメンバーで、この場所で会いましょう。その日が来ることを信じています。今日までお世話になつた皆様に感謝いたします」と述べました。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。

新年度事業などを審議 社会教育委員会定例会

3月2日に只見地区センターで、社会教育委員会第3回定例会が開かれました。

社会教育委員会は、社会教育行政に対する諮問的機関であり、学識経験者、学校関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者からなる町民の代表5名により、定時又は臨時に会議を開き、社会教育の振興などについて審議している組織です。

今回は、新年度の社会教育事業(案)などについて審議され、活発な意見交換がなされました。なお、委員は次の方々です。(敬称略)



▲事業内容を協議する委員

放射線量リアルタイム測定システム



▲只見中に設置された測定機器

文部科学省では、学校や保育所などの空間放射線量をリアルタイムに測定し、10分ごとの測定結果を文科省のホームページで24時間公開するシステムの利用を始めました。

町内で測定機器が設置され、測定が始まっている場所は、只見、朝日、明和の各保育所と小学校、さらに只見中学校と只見高等学校の全8箇所で、地面から高さ50センチまたは1メートル地点の空間線量を測定し文科省のサーバーに送信されるシステムです。文科省のホームページでは、地図上から場所を選ぶと、その地点の最新データや履歴を確認することができます。

今後も、順次公共施設などに測定機器が設置される予定です。

福島県優秀教職員表彰

増田憲子 教諭 (只見小学校)



只見小学校の増田憲子教諭が、福島県教育委員会が行う平成23年度の「教育・文化関係表彰」で優秀教職員として表彰されました。この表彰は、全国一位レベルで活躍した児童生徒や、学習指導などで顕著な成果を挙げられた教職員を特別功績者として表彰するものです。

優秀教職員の部では、19名が受賞され、表彰式は2月10日に杉妻会館（福島市）で行われました。

増田教諭は、文部科学省の国語力向上モデル事業で、地域や校内の実践研究を主導され、児童の国語力と教職員の指導力の向上に努められました。このような日々の活動が評価され優秀教職員とされました。

文部科学大臣優秀教員表彰

猪野典由 教諭 (只見小学校)



学校教育において教育実践などに成果を挙げ貢献されている教員を優秀教員として表彰している文部科学大臣優秀教員表彰を只見小学校の猪野典由教諭が受賞されました。

猪野教諭は、教務主任としてPTA関係活動の活性化に努められ、また理科指導に優れ、児童の教材提示や単元構成の工夫と、きめ細かいノート指導により、児童の理科離れの改善に努めています。さらに教職員間の連絡調整や保護者をはじめ地域諸団体との連携を密にした教育計画の立案と実施を積極的に推進されていることなどが認められました。

表彰式は1月30日に東京で行われました。今後も地域の教育活動の充実にご指導をお願いします。

地域見守りネットワーク事業

みんなで助け合いの輪を広げよう！

只見町では、地域の高齢者や災害時要援護者避難支援制度登録者、一人暮らしの方などを対象に地域見守りネットワーク事業を開始しました。

この事業は、保健福祉センターや、町社会福祉協議会などがそれぞれに管理している対象者の情報を共有し、一人一人の住所や氏名、電話番号をはじめ医療の状況や家族の緊急連絡先、近隣協力者の名前や連絡先など緊急時に必要な情報が一目でわ

かる「地域見守り・緊急安心カード」を作成し、専用の容器に入れ対象者宅の冷蔵庫に保管しておくという事業です。

これにより災害時や緊急事態などのときに、誰が駆けつけても、冷蔵庫の緊急安心カードを見れば迅速に適切な支援や救急活動を行うことができるというもので、各地区の民生委



▲緊急安心カードを手にする堀金里江さん(福井)

3年間の生活ステップに新たな旅立ち 只見町山村教育留学生第8期生送別式

奥会津学習センターでは、2月28日、只見町山村教育留学生第8期生の送別式が行われ、平成23年度は留学生9名が志を胸に巣立ちました。

はじめに、齋藤修一教育長が「志を実現するための努力を常にしてください」とあいさつを述べました。

続いて3月1日に卒業式を迎える留学生からは「3年間色々なことを学んだ。人との出会いを大切に頑張っていく」、「ここ

での生活で一番学べたことは親への感謝の心です。この気持ちをお忘れずに、これからも頑張っていく」などと3年間を思い起こし、あいさつをしました。

齋藤教育長からは、留学生一人一人に記念品が贈られ、送別の意を表しました。

送別式には、学習センターを管理する鈴木慎介NPO法人ゆいネット只見理事長も出席され、あいさつを述べ留学生を激励しました。



▲志を胸に新たな道を歩む第8期生